

んじた親睦、寛容、倫理を唱道してきた理念と超我の奉仕という共通認識が支えてきた賜ではないかと感じております。

又、雑誌には各クラブの委員会活動の内容紹介記事が載っています。各委員会の参考になることでしょう。

各クラブの地道な日々の社会奉仕活動及び各奉仕活動が、より良い地域社会の為に貢献していることが、雑誌を通して再認識することが出来ます。

実りの新世紀を迎えるに、ロータリーの理念に添った諸活動は地域だけでなく国際社会からも評価され、益々発展していくことと思います。

ロータリアンの一人として、内容のあるこの雑誌をゴミ箱へということが無いようにこれからも目を通して、参考にして行きたいと思います。

第10回理事会

開催日時 平成17年4月5日(火) 11:30~12:30

開催場所 三条ロイヤルホテル

出席者 斎藤(正) 小林(満) 淵岡 木宮 石川(友) 佐藤(義) 今村 大野 山本
佐藤(啓) 佐藤(弘) 早川 阿部 オブザーバー落合

出席者13/14(内委任状1)

- | | | |
|------|----------------------------|----|
| 協議事項 | 1. 事務局移転に伴いFAX変更の件 | 承認 |
| | ・ケーブルテレビ回線へ変更(FAX・インターネット) | |
| | ・複合機入れ替え旧機器はGB事務所へ | |
| | 2. 事務局移転作業の為例会休会の件 | 承認 |
| | 5/30に作業を行うため5/31例会を休会とする | |
| | 3. 地区委員(米山奨学委員)推薦の件 | 承認 |
| | 小林繁男・丸山 勝会員を推薦 | |
| | 4. 山上会員お見舞いの件 | 承認 |
| | 3/14~入院4月中に退院予定 | |

4月19日例会:卓話 羽賀一夫会員

4月26日例会:卓話 今村 泉会員

5月3日例会:休会(祝日)

5月10日例会:地区協議会報告会

5月17日例会:卓話

5月24日例会:家庭会合報告会

5月31日例会:休会(移転作業の為)

6月7日例会:夜例会 GB事務所開設祝い

6月14日例会:クラブフォーラム



会長/斎藤 正
幹事/小林 満
SAA/阿部 勝子

三条北ロータリークラブ週報

ロータリーを祝おう

100年の歩み

国際ロータリー会長 グレンE. エステス シニア 第2560地区ガバナー 横山芳郎
ホームページ <http://www.2nextne.jp/district2560/>

例会日/火曜日 12:30~13:30

例会場/三条ロイヤルホテル TEL34-8111 FAX34-8114

事務局/三条市西四日町3-15-34 ヒューマン・ハーバー内

TEL35-7160 FAX33-8972

ホームページ <http://www.sanjo-nrc.org> メールアドレス north@sanjo-nrc.org

例会日
2005. 4. 5
累計 No 890
当年 No 34

行事: 「ロータリー雑誌月間」ロータリー雑誌委員会

出席: 本日の出席 62名中 40名

先々週の出席率 62名中 46名 74.19%(前年同期81.67%)

先週のメイクアップ: 3月31日 燕RCへ 西村 護さん、山本 賢さん

4月2日 市内3RC次年度会長幹事会 淵岡 茂さん、石川勝行さん

会長挨拶: 斎藤 正会長



先に開催された会長エレクト研修会セミナーで研修リーダーとして佐野バスターガバナーが奉仕プロジェクトと題して凡そ1時間30分の講話の中でこのところの青少年が関わる凶悪な犯罪、特に殺傷事件に触れて1つの例として、小、中、高生の“死についてのアンケート”を紹介された。それによると20%強の生徒が、死後再び生き返る。生まれかえる。と答えたという。多発する殺傷事件も含めた少年犯罪、あるいは自ら命を絶つ少年達の出来事を憂慮して生きる力を身につけるという事を目的にした“ゆとり教育”を導入した文部科学省であったが、一例として挙げると中学校では年間この目的のために費やされた時間は100時間から110時間で理科、社会科に費やされる授業時間に匹敵している。学力の低下を招くという多くの批判を受け、“ゆとり教育”も僅か二年で姿を消すことになったわけだが少年達を取り巻く犯罪の要因は複合的であるけれど“死”という現実を正しく教えてゆくことが少年達の犯す悲しい事件を防止することになるひとつのみちではないだろうか。

小林(繁)、丸山(勝)会員が神成年度での米山奨学委員会の地区委員として就任されました。中條年度に備えて大いに研鑽を積まれることをお願いいたしますと共にご苦勞をおかけしますがどうか頑張ってください。

幹事報告: 石川(友)副幹事
・越後春日山RCより 創立10周年記念例会ご案内

日時 平成17年5月14日(土) 10:00~

会場 ホテルハイマート

- ・にいがた緑の百年物語緑化推進委員会より 平成17年度「緑の募金」の協力について
- ・次週12日は10日「観桜例会」と振り替えのため例会はありません。10日「観桜例会」を欠席され方は12日に記帳の用意がありますのでよろしくお願いします。

ニコニコボックス：	5日現在累計	856,000円
-----------	--------	----------

- 斎藤正君 少しは暖かくなって来ましたが、これから期待が持てるでしょうか。
- 小林満君 //
- 阿部勝子君 //
- 今村泉君 冬が長かったせいか桜も開花時を迷っているようです。4月10日まで良い天候が続いて花見の雰囲気が少しでも増すことを祈っています。BOX大明神のگریやくを期待して、
- 横田加代子君 皆様の温かい視線のおかげさまで満1年になりました。
- 駒形実君 BOXに協力。
- 落合益夫君 BOXに協力。
- 今井克義君 BOXに。
- 大橋政雄君 ボックスに協力。
- 山崎勲君
- 小林繁男君 山中さん雑誌委員会を代表して頑張ってください。

ロータリー雑誌月間： 山中 正委員

今年度、小林繁男委員長の下、会報、広報関連の委員をしております山中です。委員会の主たる活動は毎週、会報を作成発刊する事として、この様に例会で私がお話しする事など、想像もしていませんでした。しかし、小林委員長から「おまえ、ロータリーの友について話をしろ」と指示されたので、折角の機会でもありますし、この席に立たせて頂きました。しかし、私には「ロータリーの友」を熟読し、皆様に解説する様な能力など持ち合わせておりませんので、思いつきでございますが、別の角度からお話させていただきます。ロータリークラブはもとより、ライオンズクラブや私が過去に所属しておりました青年会議所等もこの様な内部雑誌を毎月発刊しております。雑誌のページをめくりますと必ず、数少ない広告の中で高級外国時計や高級自動車等の広告が掲載されています。広告掲載のスポンサーからすると、これらの雑誌を読む人は「お金持ち」という認識があるのでしょうか。私はとても高価なものを買うことなど出来ませんが、写真を見ているだけで欲求を満足させ、そんな人たちと「同じなんだ」と言う意識？に浸っております。大変セコイ話で恐縮ですが「ロータリーの友」は読めないベストセラーと言われているそうですが、この雑誌を作っている会社はとても儲かっているのかな？と思います。裏表の表紙のところに小さな文字で昭和28年1月創刊、通巻6・・・号と記載されています。初期の頃、どの様な形態で発刊されていたのか、私は解りませんが独占的に1

業者が請け負っていたとしたらとても良い商売だと思います。努力せずに毎月10万部売れる？のです。定価210円ですから毎月2,100万円。こんなに単純に計算したら日々、ご苦労されているロータリーの友事務局のスタッフに怒られると思いますが・・・ 私が所属していた青年会議所でのお話をさせていただきます。青年会議所の雑誌は昔「30億」と言っていました。その後、世界の人口も増え「50億」と改名されました。私がメンバーになって数年のことでした。私よりも早くに入会されていたある先輩が、本屋さんの店頭で青年会議所の機関誌「30億」を偶然手にし、読んだところ大変に感激したとの事です。たぶん「社会と人間の開発・社会開発運動・自分たちの街は自分たちの手によって良くしていこう・各地の街づくりの事例・・・等」掲載されていたのでしょうか？そして、この先輩は「こんな活動をしている団体に自分も入会したい」と思い三条青年会議所の存在を調べ入会されたと聞いています。 そのように考えますと「ロータリーの友」も一般の人々の目に触れる場所に於いて置く事があっても良いのではないのでしょうか。高いお金を掛けて作っている雑誌ですから、せめてその位の活用はあっても良いのかも知れません。あくまでも内部的雑誌との認識ですが、昨今「会員拡大が最大の課題」と唱えているロータリークラブですから内部雑誌が少しずつ外向け雑誌の内容に変化していっても良いのではないのでしょうか？とにかく内部では「読まれない雑誌」なのですから。先週の例会でペッツでの報告を淵岡会長エレクトが報告されましたが、その中に「公共イメージの推進」と言うような内容の事を話されました。これはR Iのグレン会長のメッセージとしてロータリーの友『4月号』にも掲載されております。記事の大きな見出しは「ロータリーを知ってもらうとき」となっており「100周年を迎えたロータリーは今こそ、ロータリーを知ってもらう絶好の機会だ」と言っておられます。そして、小見出しには「公共イメージキャンペーン」と書かれています。その内容は大まかには「効果的、積極的パブリシティの活用」の意味をおっしゃっているようです。他の報道機関の利用もさることながら『ロータリーの友』という素晴らしい雑誌があるわけですので、地域社会にロータリーを知ってもらう一つの方法として『ロータリーの友』の活用を真剣に考える時に来たのではないのでしょうか。

雑誌月間と「ロータリーの友」 広報雑誌委員長 小林繁男

2005年2月23日は、シカゴロータリークラブが誕生してから人間でいう百歳になります。日本では1920年（大正9年）10月20日に東京ロータリークラブが創立され、翌1921年4月1日に世界で855番目のクラブとして国際ロータリークラブに加盟承認されました。日本は八十五歳です。

'04～'05のR.Iは「ロータリーを祝おう」百年の歩みが世界共通のテーマとして各クラブの活動指針になっております。

雑誌「ロータリーの友」は、'04～'05のR.Iのテーマに添った編集で関連記事が多く割かれております。この中で特に興味深い記事が「ロータリー百周年」奉仕の一世紀・実りの新世紀の連載です。百年の国際ロータリー物語の連載では、ロータリーを破壊しかねない政治、経済の大惨事が3つあったと記されています。第一次世界大戦、大恐慌、第二次世界大戦です。

当時のロータリアンがそれらを乗り越え、活動を継続出来たのも、ポールハリスの基本的礼節を重